

初級者を対象としたCLILと外国語教育（2）

カリキュラムに対する教師の意識改革とその実践

講師：原田哲男氏

早稲田大学教育・総合科学学術院教授

開催日時：2018年10月20日(土) 13:30 – 15:00

会場：上智大学四谷キャンパス 2号館4階414教室

対象：言語教育全般に関心のある教員および学生

参加方法：事前申し込み不要・参加費無料

CBI(Content-Based Instruction)やCLIL(Content and Language Integrated Learning)は、教室内外で「意味のある言語使用」の環境を提供してくれるものであるという立場から、カリキュラム・デザインの手法を考える。とくに、教授・学習の状況把握（カリキュラムの原則、状況分析、学習者ニーズ分析）、目標設定、学習内容、評価に焦点を当てる。さらに、いわゆる内容(content)を外国語で学習する者にとって分かりやすく(comprehensible)するにはどうしたらよいかも検討する。

講演者紹介

埼玉県の公立高校の英語教員としてスタート。筑波大学大学院教育研究科英語教育コース修了後、都内の短大で言語学、英語を担当。University College Londonで音声学修士号、University of California, Los Angeles (UCLA)で応用言語学博士号を取得し、UCLAで移民や留学生を対象に英語授業を、その後University of Oregonで応用言語学、日本語学、日本語教育を担当した。大学院生、大学教員、研究者として様々な観点から英語教育や外国語教育を体験した。専門は、第二言語習得（音声習得）、バイリンガル教育、英語教育、日本語教育。早稲田大学教育学部英語英文科、同大学院教育学研究科英語教育専攻で第二言語習得やバイリンガル教育などの授業を担当している。

研究業績

日本の大学におけるCBIのカリキュラム開発についての章を*The content-based classroom: New perspectives on integrating language and content* (2017, University of Michigan Press)に執筆、さらにEMI(English Medium Instruction)と語彙力との関係（共著）を*TESOL Quarterly* (2018)、英語と第二外国語の動機付け（共著）について*The Modern Language Journal* (2017)に掲載。その他著作多数。

